

令和5年度別府市人権教育学級 第8回学習会

日時：令和6年2月15日(木) 10:00~11:30

場所：別府市中央公民館 講座室

テーマ：子どもと人権 「生きづらさや困難を抱えるこども・若者」

講師：特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット 理事長 矢野 茂生 さん

プロフィール

- ・公立中学校の教員として9年間勤務ののち、県立の児童自立支援施設で、13年間児童自立支援専門員として勤務。その間に仕事をしながら大学院に進学、「困難や生きづらさを抱えるこどもや家族」について研究を重ねる。
- ・「緊急避難を要するこどもへの支援=こどもシェルター構想」の協議会設置を経て2015年に「おおいた子ども支援ネット」を創業、現在に至る。



<講師の矢野 茂生さん>

講演の概要

1 困難ってどこにある？



社会の中にある様々な「規範」、移り変わりの速い時代の「速度感」、こうしたしなければならないという「定型」等

2 各種調査のデータから見える子どもを取り巻く状況

- ・いじめの状況 ・不登校の状況 ・自殺の状況 ・自身について ・自分の国の将来について

3 子ども～成人期までの様々な生きづらさに対応する法人紹介

- ・未就学期 子どもセンター「かおるおか」 ・義務教育期 放課後等デイサービス「なないろ」
- ・若者期 自立援助ホーム子どもシェルター「みらい」

4 現場で見る風景

- ・支援を必要とするこどもには、「パワー表出型」「苦しさを内に秘めるタイプ」、そして、複合的な生きづらさを持つ「いろいろ複雑型」などいろいろなタイプがある。しかし、実は、生きづらさに寄添い、その子に合った適切な支援を行うことで、自分の中の生きづらさを乗り越え、自分らしく生きていくことができる力を持つことができるようになる。→「目に見えることが全てではない」

5 困難は「地続き」・支援は「分断」

- ・生きづらさや困難は、成長によって増加・増幅する
- ・支援者の支援は、こどもの成長とともに分断される

「つながりと共助」
支援者を支援するしくみが必要

6 なんとなくみえてきたこと・感じていること

- ・支援が「できる・できない」ではなく、支援がその子に「あっているかどうか」が重要→
- ・こどもや若者自身に必要なことは、「選べる」「決めることができる」

家族や環境全体を支えていける「地域」が重要

7 まとめ：「これまでとこれから」

- ・これまで通りがよいこと
- ・これまでに少し変化が必要と思うこと
- ・新しくデザインすることが必要なこと

子どもたち・若者たちは未来を創る主人公

◇学習会を終えて

学べた理由…アンケートより一部抜粋

大分でこのような取組がされているとは知らなくて大変勉強になりました。

きちんと向き合うこと・助けを求めてよいということを学びました。

目に見えることが全てではないこと、子どもたちを取り巻く周りの環境がいかに大事かということを学ぶことができた

学習会後のアンケートでは、「大変勉強になった」ことはもちろん、「周りに伝えていきたい」「周りを助けられるようにしたい」「自分にできることを考えるきっかけになった」など、主体的にこれからの取組を考える感想が多く寄せられました。アンケートの結果については、今後活かしていきます。